

授業科目 がん看護学特論Ⅲ	科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 前期
科目責任者	鳴井ひろみ	
担当者	鳴井ひろみ、棟方正樹、鎌滝章央、松坂方士、伊東健、真里谷靖、長谷川善枝	
<p><b>1. 科目のねらい・目標</b></p> <p>がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学全般について学び、最新の診断、治療について学ぶことで、高度な臨床判断とがん看護実践に必要な専門知識を修得する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>1) がんの要因・発生・病態生理について、分子生物学、免疫学、遺伝学、疫学の観点から理解し、知識を深めることができる。</p> <p>2) がん組織の病理学的・臨床的特徴と症状との関連および診断と治療について理解し、高度な看護実践を展開する上での基礎的知識を修得する。</p>		
<p><b>2. 授業計画・内容</b></p> <p>1回 : がん医療の動向 (鳴井) 1) がん医療の動向とがん看護専門看護師の役割</p> <p>2回～5回 : がんの分子生物学 (鎌滝) 1) がんの形態・分類 2) がんの発生・原因 3) がん遺伝子とがん抑制遺伝子 4) 発がんの増殖、がんの進展と転移</p> <p>6回～7回 : がん免疫 (伊東) 1) 腫瘍に対する免疫応答 2) がんによる免疫抑制</p> <p>8回～9回 : 腫瘍遺伝学 (長谷川) 1) 腫瘍遺伝学 2) 遺伝子診断</p> <p>10回～11回 : がんの臨床医学 (棟方) 1) 診断(病理診断、画像診断)と治療 2) 集学的治療</p> <p>12回～13回 : がん疫学 (松坂) 1) がんの疫学 2) 発生要因とがん予防医療の動向と課題</p> <p>14回 : 放射線被曝と健康への影響 (真里谷)</p> <p>15回 : まとめ (鳴井)</p>		
<p><b>3. 教科書、参考書</b></p> <p>講義の中で適宜紹介する。</p>		
<p><b>4. 成績評価方法</b></p> <p>講義およびゼミへの取り組み状況 70%、レポート 30%で総合的に評価する。</p>		
<p><b>5. 受講要件</b></p> <p>実践看護学特論Ⅰ・Ⅱ(がん看護)を履修する者、がん看護専門看護師コースの学生は必修</p>		
<p><b>6. 社会人学生に対する配慮</b></p> <p>相談があれば個別に対応する。</p>		
<p><b>7. その他</b></p> <p>講義内容について事前に学習して臨むこと。</p>		